

1993.9
第16号

博物館だより

大津市歴史博物館



— 古代の宮都 —

よみがえる大津京展を開催

9月29日(水)～11月5日(日)

平成五年は、大津市が誕生してからちょうど九十五周年にあたります。大津市歴史博物館では、これを記念して、九月二十九日から特別展を開催します。

天智六年(六六七)、中大兄皇子(のちの天智天皇)は突如、都を飛鳥から近江大津の地に遷します。世にいう大津京遷都です。大津京はわずか五年余りの短い都ではありましたが、一時期、大津がわが国の中心になっていたのです。

長い間、その場所がはっきりしていなかった大津京も、昭和四十九年、大津市錦織で京の中心となる宮に関連すると思われる大きな建物跡が見つかり、大きな話題となりました。以来、二十年余りを経たいま、錦織地域から内裏正殿・内裏南門・長殿・回廊・堀・石敷溝などに推定される多くの遺構が明らかになっています。ようやく大津宮の姿がある程度復元できようになってきたのです。

本展では、いままでの発掘調査成果をもとにして、遷都前夜の大津の情勢から、遷都を経て、壬申の乱で廢都となり、都が飛鳥に戻るまでの歴史の流れの中での大津京の姿を、他地域の古代の宮都と比較検討しながら、詳しく紹介していきたいと思っています。展示品は国宝一点、重要文化財二点を含む総点数二百件考。古資料を中心に、絵画・彫刻・文献資料などを超え、これに大津宮中枢部の建物復元模型(縮尺二百分の一)や壬申の乱をテーマにしてビデオを制作するなど、どなたにでも楽しんでいただける展示内容にしています。ご期待ください。

特別展の概要

「よみがえる大津京」展では、次のような実物資料・模型をはじめ、多くの写真資料なども展示して、皆さんをお待ちしています。

◇本展は、第一部から第四部までの四つのコーナーから構成しています。

- 一 都、大津へ―遷都にかかわった人々―
- 二 遷都前夜の大津―渡来人の里―遷都を支えた人々―
- 三 そして、壬申の乱おこる―大和から美濃、大津へ―
- 四 大津京、現代によみがえる―大津京、平城京、そ

して平安京―

◇主な展示品は次のとおりです。

或る御神像、飛鳥の春の額田王（滋賀県立近代美術

館蔵）

重要文化財木造伝大津皇子坐像（薬師寺蔵）

水時計（漏刻）模型（飛鳥資料館蔵）

大通寺古墳群出土馬具類（滋賀県立安土城考古博物

館蔵）

重要文化財縄生座塔心礎納置品（文化庁蔵）

川原寺裏山遺跡出土方形三尊博仏（明日香村教育委

員会蔵）

瀬田橋復元模型―縮尺七分の一―（滋賀県文化財保護

協会蔵）

国宝崇福寺塔心礎納置品（近江神宮蔵）表紙写真）

平城京跡出土奈良三彩壺（奈良国立文化財研究所蔵）

平安京跡出土緑釉鳳凰文鸕尾（京都市考古資料館蔵）

なお、展覧会期間中には、大津京遺跡見学会（十月三

日）、シンポジウム「大津京、その謎を追う」（十月

十七日）、展示品解説（十月二十三日）など、多くの

催し物を行いますので、申し込みなどの問い合わせは

大津市歴史博物館へ（大津市御陵町二―二） ☎〇七七

五―二二―二一〇〇。



或る御神像（滋賀県立近代美術館蔵）



大友皇子像（法持寺蔵）

収藏品紹介 ⑮

立版古・明智左馬之助琵琶湖乗切之図

紙本版画 縦三七・〇cm×横二五・〇cm

明治二十九年一月刊

立版古は、起し絵とも呼ばれ、家屋・人物・風景、芝居の舞台面などを描いた錦絵を、裏打ちして切り抜き、立体的に組み上げて、楽しんだ玩具の一種です。

一八世紀末頃から江戸で流行しました。

本作品は、『太閤記』にみえる「明智左馬之助湖水渡り」の逸話を題材としたもの。「川角太閤記」(一七世紀前半成立)によれば、天正十年(一五八二)六月十四日、明智光秀の女婿・弥平次秀満は、山崎の合戦での光秀の敗死の報を聞き、安土城を捨てて、光秀の妻子の立て籠もる坂本城へと向かいました。しかしすでに大津の町は、羽柴秀吉の武将・堀秀政が固めていたため、大津の町はずれの打出の浜から馬を琵琶湖に乗り入れて唐崎めざして泳ぎ渡り、柳が崎に上陸、無事坂本城に入城したというものです。のち、この主人公秀満の名は、左馬之助光春(または光俊)として誤伝され、後者の名で有名な逸話となりました。

この逸話は、江戸時代後期、『太閤記』をもとに講談化され、浮世絵の題材ともなりましたが、また歌舞伎化されて流布しました。著名なところでは、時代は下りますが、幕末

から明治にかけて一時代を築いた歌舞伎作者・河竹黙阿弥(一八一六―一九三三)が劇化しています。

明治三年(一八七〇)一月、東京・守田座の「館扇曾我訥芝王」の一番目に、「墨画竜湖水乗切」の外題で初演されました。左馬之助の役は、二世沢村訥升(のち四世助高屋高助)でした。この芝居は好評で、二世沢村訥升が、明治六年八月、東京・中島座で、「其譽湖水駒」の外題で再演、同十六年三月には、東京・市村座で「梶手浜乗切講談」の外題で三演しています。明治二十九年四月には、東京・明治座で五世尾上菊五郎も、「明智光俊警乗切」の外題で上演しました。本作品は、明治二十九年一月、東京・浅草の浮世絵師・牧金之助が、五枚続きの組立立版古として発行したもので、「明治座当狂言琵琶湖乗切之図」とあって、同年四月の明治座の芝居の前景気をつけるための出版とみられ、「明智左馬之助・尾上菊五郎」との書き込みも見えています。

(中森洋)

「琵琶湖の船展」閉幕

平成五年八月二十八日から、企画展「琵琶湖の船―丸木舟から蒸気船へ―」を開催し、八月五日、好評のうちを終了しました。

本展は、今から約四千年前(縄文時代後期)の遺跡から出土した丸木舟にはじまる琵琶湖と人々の歴史を、船を通じて紹介したものです。

展示では、こうした琵琶湖の船の歴史を語る考古資料や古文書、地図などの歴史資料、湖上の様子を描いた屏風や絵巻、船に係わる民俗資料、船の模型など重要な文化財四件を含む多彩な資料で構成しました。なかでも琵琶湖独特の運搬船丸子船の「縮尺五分の一」模型は、細かな部分まで実物そっくりりに制作されており、多くの観客の関心を集めました。

会期は、三五日間で、総入場者は六七三二人でした。会期中の八月二十三日には、皇太子殿下、同妃殿下が来館されました。両殿下は、同月二十四日からの第五回全国農業青年交換大会にご臨席されるため滋賀県に行啓されたもので、施設ご視察の初めとして本館をご覧になりました。山田豊三郎大津市長のご先導、木村至宏館長のご解説にひとつひとつうなずかれ、一時間かけて常設展示、企画展示を熱心にご覧になりました。とくに交通史にご造詣の深い皇太子殿下は、企画展「琵琶湖の船」をご興味深く見学され、いくつもの質問されておられました。好天にも恵まれ、両殿下には印象深い湖国第一日目ではなかったかと、思われます。

期間中の関連行事として以下の見学会、講演会を開



催しました。

・八月一日「湖北諸浦に最後の丸子船を訪ねて」として、西浅井町大浦・菅浦を見学。参加者43名。

・八月七日木村至宏本館長による講演会「琵琶湖の湖上交通」。聴講者45名。

・八月二十一日展示品解説。聴講者25名。

・八月二十八日日本民俗学会評議員橋本鉄男氏による講演会「湖と丸船のはなし」。聴講者79名。



博物館日記抄

7月9日
9月7日

7月9日 大津市美術展(15日まで)、東大阪市花園中学校99人来館

16日 高橋清之氏(NHK)、五個荘町郷土史研究会、富山栄養専門学校51人来館

20日 定期の煙蒸(23日まで)につき臨時休館

24日 仏教大学通信教育学部63人来館

27日 企画展「琵琶湖の船―丸木船から蒸気船へ―」開場式およびレセプションを開催

28日 一般公開、大國義一氏(京都女子大学)、名城大学一行来館

8月1日 「琵琶湖の船」展にかかる丸子船見学会(西浅井町)を行う。定員の二倍の申し込み。博物館敷地内の草刈り(8日まで)

3日 西川幸治氏(京都大学)、タイ・パキスタン留学生3人、古屋彰司氏(東京美術)各来館

6日 国学院大学文学部学生38人来館

7日 琵琶湖の船展記念講演会(講師 木村至宏 当館館長)

9日 行啓リハール行われる

10日 松井忠幸家(藤尾)資料調査、消防訓練を実施

13日 第20回運営会議を開く

17日 博物館観覧者数三十万人目を迎える、谷村芳郎市助役から安田清美さん(京都市山科区)に花束・記念品を贈呈、仏教大学50人、高井八良氏(県教育長)来館

21日 第68回土曜講座(琵琶湖の船展展示解説)山名伸生氏(京都精華大学)、十河泰雄氏(福

井市)来館

23日 皇太子ご夫妻視察のためにご来館される(視察時間一時間二十五分)

24日 京都市東山中学校一〇七人、竹木村教育委員会、横谷真一郎氏(日本工業大学)来館

25日 博物館実習はじめる(七大学学生、25日まで、西川幸治氏(京都大学)、桑山俊道(県立近代美術館)、八木聖弥氏(同志社大学)、森谷尅久氏(武庫川女子大学)各来館

26日 竹本コツエ氏(滋賀)から貴重図書「寄贈をうける。林屋辰三郎当館顧問、上原恵美氏(県政策監)、豊島修氏(大谷大学、今泉成人氏(東方出版)、一ノ瀬多恵子氏(シグマ社出版)各来館

28日 琵琶湖の船展特別講座開く(講師 橋本鉄男日本民俗学会評議員)

29日 陳全方氏(中国陝西歴史博物館館長)、岑啓明氏(中国陝西省考古研究所所長)ら来館、近畿民俗学会開かれる

9月1日 第21回運営会議、館内会議を開く

5日 琵琶湖の船展閉幕、観覧者数六七三一人

7日 石橋正嗣氏(安土町教育委員会)、植村利之氏(安土町役場)来館

博物館だより 第16号

発行日 平成五年九月二十八日

編集 大津市歴史博物館

発行所 大津市歴史博物館

電話(〇七七五)二二二二〇〇代